



やさしい ここ3

## やせこい ひるみ

図工の 時間、石に 絵を かいだよ。

ぼくは ペンギン、  
友だちは ブタやネコ……、 いろいろね。

すこーく おもしろかった。  
ぼくは、家でも かっこうと 思った。

—— 間をあけて ——

石は かわうで ひろうんだ。

ぼくは、川に行く 近道を 知っている。

1／2 ぬく

じゆじゆつかう どひべ おき場の  
わきを 通るのさ。  
でも、ドキドキする。  
こわい おじさんか、こわからぬ。

—— のこりをぬく  
——

少し、  
きんぢょうして

脚本・絵  
有賀 忍（絵本作家・板絵画家）

製作  
公益社団法人「小さな親切」運動本部

演  
出  
ノ  
一  
ト



## やさしい こころ

おじいさんの頭は、おにぎりの  
三角頭！

だから みんな、オーリコンって よんだね。

オーリコンは、こいつ サンタだ。

オーリコン 「あこやつはなに？」 おーじ 懐かんやー。」

オーリコン 「ねたがれ、あわてて ペロコー。」

オーリコン 「瓶が 小ちこー。」

オーリコン 「じなぬんだ。」

オーリコン

「おおひやー。」

大きな声で

小さな声で

—— 1／3 ねく ——

おおひやー 通れ! おひこ! 見つかっちゃう。

—— のいつせんといとねく ——



## やさしい ここ3

オーギリン

「おい じりっ!  
なんだ言つたら わかるんだ!  
あいさつしてけ!  
かつてに 通ると あぶないぞ。」

どうなってるに

ほくたか

「「めんなさい! じそじそはー。」

あわてて

あらと、オーギリンは おじやれをして 見せた。

オーギリン

「うつやむんだ。『ここにひかは』はー。」

頭を下げる

オーギリンって いつも しかめつたりー。  
わらったの 見たことないよ。

ぬく



やさしい ここ3

夜、お父さんに 聞いてみた。

ほへ

「オーライソンは じつじて、  
『あいわつしないと 通さない』って 聞いたの?  
そんだけんり ないよね。」

ふしきりとうに

お父さんは 教えてくれた。

お父さん 「通さない けんりかい? それが、あるんだなあ。

だって、あそこは おじさん�の 土地なんだよ。」

ほへ

「うーん、 ううか……。  
でも、なんで、 オーライソンは  
『あいわつして 通れ』って 聞いたの?」

お父さん

「それはな、 お前たちの  
あんせんの ためなんだ。」

ほへせ つわの田、妹と 石を ひらくに行つた。

ほへ

「おじさん、 ひなこひなー。」

ほへせ ひなこひなー、  
「ひなこひなー、 ちやんと 聞いて 通つたみ。

—— 1 / 3 ねく ——

かわいいつづて ピックリ!

—— 9-1つをたとめく ——

おじいさんの声で



やさしい ここ3

子犬が おぼれてるー！

—— 間をあけて ——

おじいさん 「リズ、がんばれ！ リズ リズ……！」

おじいさんが、子犬の 名前を よんでもる。  
リズは、水をバシャバシャ、ぐるしそう。

おじいさん 「まつや、たのむー！ だれかに 知らせてくれ。」

あせって

「まつてー！ だれか よんでもる。」

オーラリンの 顔が うかんだ。

—— 1／3 ぬく ——

ぼくは、走った。ひっしり 走った。

—— のいつをたつとぬく ——



## やさしい ここ3

ほく

「おじさん たすけて!  
川で子犬が おぼれてるのー!」

おぎりん

「あらや、たいへんだ!  
よし、いってー!」

いきおじこんで

しんけんに

おぎりんは うでまくつして  
走りだした。

早いこと、早いこと—  
もうスピード!

ぼくも一生けんめい 走ったよ。

—— 1 / 3 めぐ ——

おぎりんは 川に 入った。  
じんじん リズに 近づいて いく。

ほく

「おじさん、がんばつてー。」

おぎりん

「だごじょひづ。おかせておけつてー。」

じしんをもつて  
はつきりと

—— のいつをたつとなく ——



やさしい ここ3

オニギリンは あつとこりの間に  
リズを すくいあげた。

リズが たすかった！

たすかった！

オニギリンが たすけたんだ。

ぼく

「よかつたね」

ぼくと妹は、ほっとして 風を 見合わせた。

ほっとして

はしゃぐように

ぬく



やさしい ここ3

おじいさんは 大よろこび！  
リズを、ギュッと だきしめた。

そして、オーライコンに 頭を 下げた。

おじいさん 「ありがとうございます。」

あなたは いのちの おんじんです。」

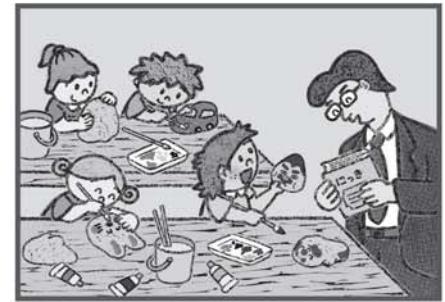
オーライコンたら てねくせんうに、頭を  
かいた。

おじいさん 「じこりやん、れいなり、  
じのせつやに 言こなよ。」

おじいさん 「ねつだつたね！  
きみが 知らせて くれたんだつた。  
ありがとう ぼうや。  
ばあさんの分も ありがとう。  
リズは、ばあさんと わしの  
かわいい 子どもなんじや。」

ぬく

はずかしいついに



やさしい ここ3

ぼくは リズのことを 日記にかけて  
先生に わたした。

「よいうことを したなあ。えらいぞ！」

先生は ぼくを ほめてくれた。

間をあけて

図工の時間、また 石に  
絵をかいた。

ぼくは 二つかいた。

一つはリズ。もう一つは オニギリン。

先生は 絵を見て わらった。

「わうか、こいつう顔かー。  
たしかに、おにぎりみたいだなあ。ああははは。」

ゆかいそうに

1／2 ゆく

じぱらぐして、  
ぼくの 家に おきやくさんが みえた。

—— のこりをさっとぬく ——



## やさしい ここ3

あの時の おじいさんだった。  
おばあさんも いつしょだ。  
それに、リズも！

—— 間を開けて ——

おばあさんは、なんども 頭を下げた。

おばあさんは、なんども 言いたくて、  
「ひいしても われいが 聞いて きたの。  
ぱりやのじと、小学校で  
リズを たすけてくれて、  
本当に ありがとう。」

ぼくは はずかしかった。てれちやうよ。  
だって、当たり前のことを しただけだもの。

おばあさんは おみやげをくれた。

「みんなで めしあがつしね。」

—— ぬく ——

かんしゃの心を  
こめて

こひつこひつ



## やさしい ここ3

おみやげは、マドレーヌだった。

ぼく

「おじいちゃん。でも、ねえお母さん、食べていいく。」

じきおじょく

「わかったよ。でも、あなた一人で リズを たすけたの?」

—— 間をあけて ——

オーギリーンの顔が うかんだ。

ひつしに 走る オーギリーン!  
ジャブジャブ 川に入つていく  
あせだくで ズボンびっしょりの オーギリーン!

ぼく

「半分 じじかべーーー。」

がんばつて いる  
すがたが、目に  
うかぶように  
うつたるよみに

ぼくは マドレーヌの匂いを めつて、家を じび出した。

—— 1/3 ぬく ——

ぼく

「おじいさん、プレゼントー。  
リズの おばあさんからだよ。」

おーギリン

「えつ、おれいなんか いいのに。  
でも、せつかだから ちようだいするか。  
ありがとよ!」

オーギリーンが はこをあけぬー。  
むねが ドキドキする。おこりれるかなあ……

きんちょうした  
声で

明るく、  
じうかに

—— のうつけやつとぬく ——



やさしい ここ3

だって ぼく、オーギリンの 顔をかいだ 石を  
入れて おいたんだもの。

オーギリン 「ぐふ、がははは。なんだ こりや！

おれに そつくりだー！

がはははは！

がははははー！

わらった！ オーギリンが わらった！  
しかめっつらの オーギリンが  
はじめて わらった！

ほく 「あははは。」

ぼくも つられて わらつちゃったよ。

オーギリン、もうぜんぜん こわくない。

きみのまわりにも、

オーギリンみたいな人、いる？

こわそただけど、本当は すくべやさしい人。

いいね いいね、「やさしい いじわる」。

(おしまい)

声をおとして  
やさしくして  
ていねいに